

ほっと一息

全学共通カリキュラム運営委員に選任されて、昨年4月から全カリの委員として働き始めた。全カリとは、一般教育が解体されて、その後どこが語学を始めとする教養科目の責任を持つのが発端になってつくられた組織であろうと、考えていた。運営委員会にちゃんと出席してみなさんのご意見を拝聴して、自分の学部に関連していそうな議題になるとしっかりとメモをとって、ぼんやりと考えていた。しかし、どうもそんなのんびりしたことは言っておれないらしいことをすぐさま思い知らされた。この委員会は学内各学部から委員が2名ずつ選出され、さらに専門委員、なんとか部会長おまけに部長までもそろったれっきとした教授会だったのだ。「なんだそんなことも知らないで送り込まれたのか」とか、ついでに、「おたくの学部は先生の人数はそんなに少なかったのですか?」と、あちこちの会議に便利屋のように顔を出しているように見えるわたしは、ある偉い先生からそう言われもした。こちらも別に好きでこんな大変な所に…、と思いつつ、自分でも何か役に立つことがあるなら、と引き受けた手前、あまり弱音もはずさず…。この委員会は通常の（自分の所属している）教授会とはかなり違うところがある。第一に委員の先生全員が起きている（眠っていない）。しかも熱心に議論に参加されている（訳のわかることを言われている）。同じ基本的な考えがあってそこからなにかしら目指す大切なことを目標として議論をされている（自分のエゴばかり言い合っているわけではない）。年齢だけは人並みにとっているわたしに“ちゃんと人生勉強をして来い”と、選任された裏にはそんな隠された秘密が実はあったのだと、今更ながらに感心もした。いつも長時間かかり体力を使い果たす委員会に加えて英語人事の委員長までもがまわってきた。ひとを選ぶ観点もそれにふさわしい教養もなにもない。人事委員の先生から教えられた通りのことを何とかこなして、どうにかそれも無事終了。しかしまだこのフォーラムの編集の仕事が待っていた。一緒に編集委員を引き受けて下さった文学部のA先生のかわいい笑顔に助けられ、何とかここまでたどりついた。是非多くの方々にお読みいただき、ご感想などをいただければ幸いである。

さあこれでついに終わりだ。全カリ教務のTさんのうれしいニュースやいろいろな思い出がたくさんありました。「1年間お世話になりました」と言おうとするわたしに、「委員の任期は2年ですよ」とN氏が冷静に規則を告げてくれた。